

幼稚園教育実習における現状と課題

Current Status and Issues in Educational Training at Kindergarten

菜 原 桂 子

NAHARA Keiko

I. はじめに

近年、幼稚園教諭2種免許取得のための教育実習は、北海道全域の幼稚園・認定こども園と幼稚園教諭養成課程のある大学・短期大学・専門学校間の連携により、実習評価観点の統一を目指す動きや、実習日誌や指導案をはじめとした実習状況の情報交換等、積極的に行われ、よりよいものに変化を遂げてきた印象を受ける。

しかし、その反面、実習園の実習計画による実習内容に大きな違いが見られたり、現在の実習生の状況で対応するには困難な状況が発生するなどの課題があることを感じることも少なくはない。更に、北海道における幼稚園教諭養成校全体の情報を共有する場や幼稚園教育実習について検討する場でも、このような話題が大きく挙がってきていることも、現実である。このことは、現在の学生の状況や情報の把握の不足、養成課程におけるカリキュラムの変更をはじめとした、求められる人材育成における内容の変化や、それらのことに基づき検討された実習計画の内容の共有がうまく稼働できていないこと等が原因の一つとして考えられるのではないだろうか。

菜原・梅村・石澤（2022）の実習生による実習報告書の内容をテキストデータとして行ったテキストマイニングによる分析結果では、最も出現頻度が高かったワードは「子ども」であり、周辺には「学ぶ」「言葉」「保育」「関わる」続いて「読む」「絵本」「手遊び」といった語句も多く出現した。子どもとのかかわりの中で保育に必要な技術についても意識していたことが考えられると述べている。このことから、実習生にとって教育実習での貴重な経験に対する感じ方は、様々ではあるものの、実習が今後の職業選択に影響していることは重要なとらえであるといえよう。児玉（2012）によると教育実習は、初めて実際の職場で実際の仕事を行うという機会であり、自らの職業選択を再考する契機になると示唆している。もしも、実習生が「理不尽さ」や「不公平感」、「不足感」等のネガティブな印象が強く残ることがあるとしたら、せっかく目指した職業を断念する可能性も懸念されるのではないかと考える。

そこで、本稿は今年度、幼稚園での教育実習を終えた学生より、教育実習全体の中で検討事項として多く上がる内容について、細かく調査を行い、現状の把握と考察を行い、今後、取り組むべき課題を明らかにし、次年度以降の教育実習、教育実習事前・事後指導の向上を目指すこととした。更には、実習生にとって事前・事後指導がしっかり活かされた、より良い実習内

容を経験することに加え、教職への魅力を感じながら、自信や意欲とともに教職への志しを高めていくことを最終目的とした。

Ⅱ. 教育実習の概要

Ⅱ－1

●実習の目的

- (1) 幼稚園の教育の実際（現場）について、体験を通して総合的に学ぶことができる。
- (2) 短期大学部で学んだ基礎的な理論や技能を、園児の成長・発達に合わせて有効に生かす実践的な態度を身につけることができる。
- (3) 幼稚園の先生としての愛情や使命感を深め、自ら保育者としての資質や適性について自覚することができる。

●教育実習期間：令和4年5月16日（月）～6月3日（金）を基本として3週間（15日間）

●幼稚園教育実習対象学生：北翔大学短期大学部こども学科2年生・長期履修生79名

（幼稚園教育実習・小学校教育実習の選択）

●教育実習園地域：札幌市…26園 江別市…4園 道内…39園 計…69園

●事前・事後指導関連教科：教育実習講義Ⅰ（1年次後学期15回）

教育実習講義Ⅱ（2年次前学期15回）

●実習日誌：本学指定様式（項目記入式）

●実習指導案：本学指定様式

●事前・事後指導について：教育実習講義Ⅰ・教育実習講義Ⅱにおいて、本学発行「教育実習の手引き」その他資料に基づき行う。

●事前・事後指導内容概要

①	「教育実習とは」「教育実習の目的と意義の理解」「教育実習で学ぶことについて」
②	実習実施の条件（所定単位の修得・適格性・麻疹抗体反応・胸部X線等）と流れについて
③	「実習の心構え」「基本的態度」
④	指導案・日誌について
⑤	模擬保育
⑥	事前訪問（オリエンテーション）指導
⑦	訪問指導担当教員による実習生指導
⑧	実習自己評価・振り返り・キャリアプランニング
⑨	実習園評価表による個人面指導
⑩	実習報告会（実習学年全体報告・短期大学部こども学科全体報告）

※上記を教育実習講義Ⅰ・教育実習講義Ⅱの授業内30回内で行う。

※こども学科全体報告会は保育実習（保育所・施設）も含め応用教育セミナーⅡ（2年次）

基礎教育セミナーⅡ（1年次）の授業内で合同で行う。

●実習実施要項（抜粋）による実習依頼内容

※各幼稚園の実習計画に従う

※認定こども園の場合教育標準時間認定で実施

（1）幼稚園教諭としての活動の実際について

- ①年少・年中・年長にわたっての観察・参加実習の経験
- ②部分実習の実践
- ③1日実習の実践

※指導内容：・よく観察し意欲的に行動すること

- ・不明点は指導教諭に積極的に質問し、教えていただくこと
- ・指導案は事前に余裕を持って作成し、提出期限厳守の上、ご指導いただくこと
- ・日誌は誤字脱字のない様丁寧に記述し、必ずその日のうちに書き終えること

（2）幼稚園教育活動の実際について

- ①幼稚園経営・運営組織の理解
- ②幼稚園運営，保育内容・保育方法・保育者の役割についての理解
- ③各種幼稚園行事，園児の活動等への参加と子ども理解

（3）教職員の勤務について

- ①幼稚園教諭としての資質の体得，服務上の理解
- ②施設設備，教材教具等の活用と管理
- ③会議，研修会への参加と対応

Ⅲ. 幼稚園教育実習における現状の調査内容と結果

Ⅲ－1. 調査対象と方法

対 象：こども学科 保育コース・教育コース（幼稚園実習選択者）76名

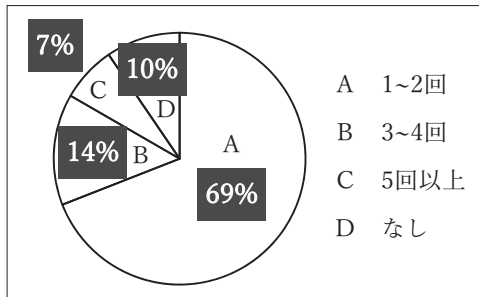
調査方法：教育実習報告書・教育実習終了後アンケートによる。

姫野・渡部（2006）は，教育実習の事後指導によって，教育実習中は見えなかった子どもとの関わりや自らの成長を客観的にとらえることができ，実習生自身が今後の課題を発見する効果があることを示唆している。そのことから，今回は実習事後指導として以下の振り返りを行い調査した。

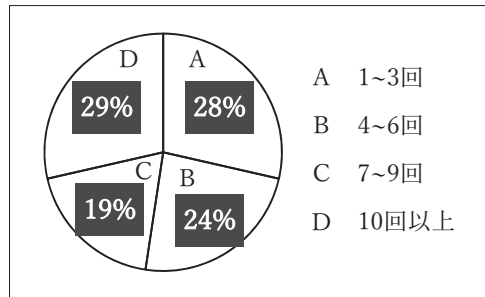
- ①全体的な振り返り：6項目 ②実習自己評価：4項目
- ③実習日誌からの振り返り：5段階評価形式・アナグラム表作成
- ④キャリアプランニング：4項目 ⑤実習報告：各6名前後のグループ内報告

Ⅲ－２．調査内容・結果

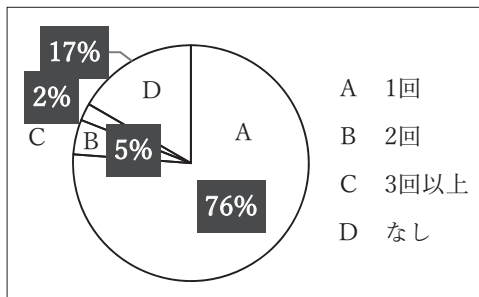
①設定保育実施回数



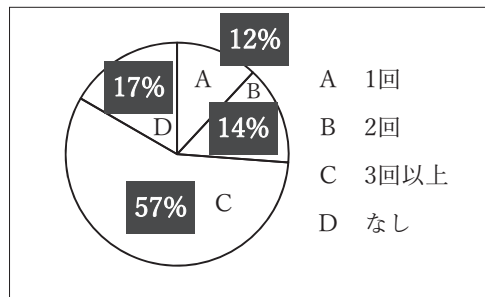
②部分実習実施回数



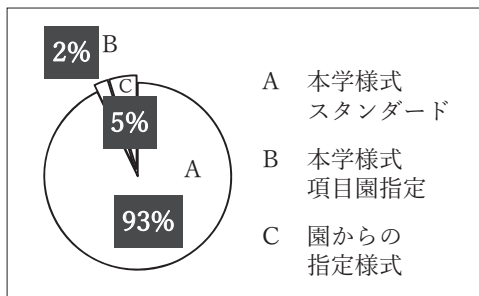
③1日実習実施回数



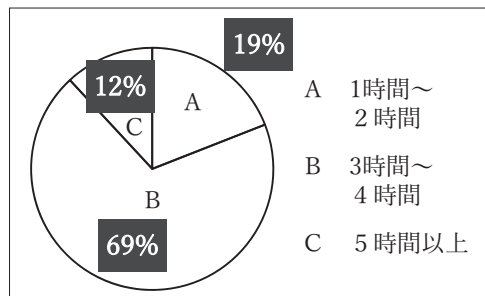
④ピアノの実践回数



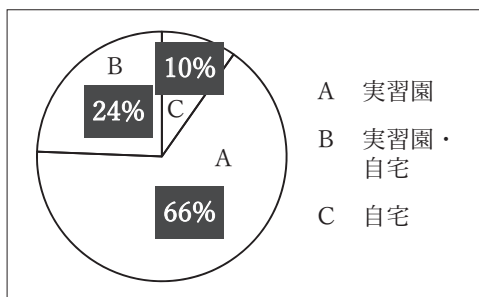
⑤実習日誌の様式



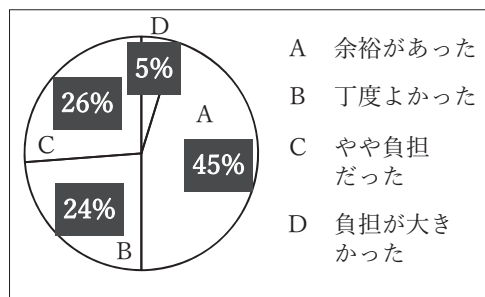
⑥実習日誌の記述時



⑦実習日誌記述場所



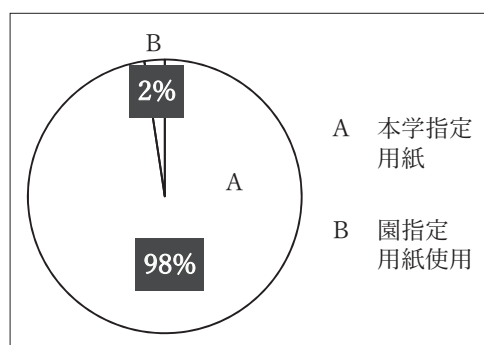
⑧実習日誌記述による負担度



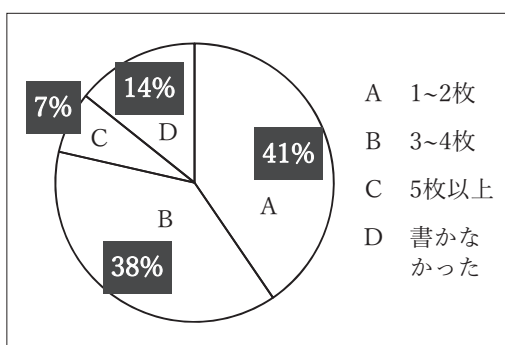
⑨負担理由（自由記述抜粋）

1	日誌を書くことに慣れていなかったので時間がかかったため
2	手書きの為、緊張と手の疲労が大きかったため
3	きれいに書くために下書きを行ってから本書きを行い時間が倍かかったため
4	講義は受けたもの実際に書くとなると何をどのようにどこに書けばよいのわからなかった
5	指導案との両立が大変だった（指導案5回以上作成者回答）
6	実習園がとても細かく記述する方針だったので毎日4時間くらいの時間を要したため
7	普段は鉛筆でレポートなどを書くため、ペンで書くことになれていなかったため
8	予想以上に記述に時間がかかり気持ちに余裕がなかったため

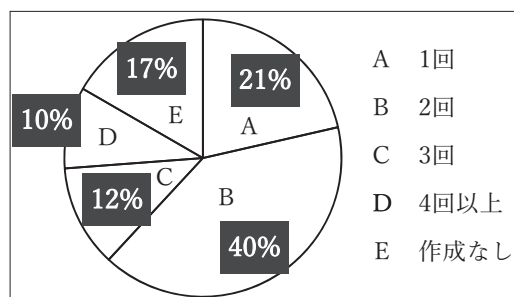
⑩指導案様式



⑪部分実習指導案作成回数



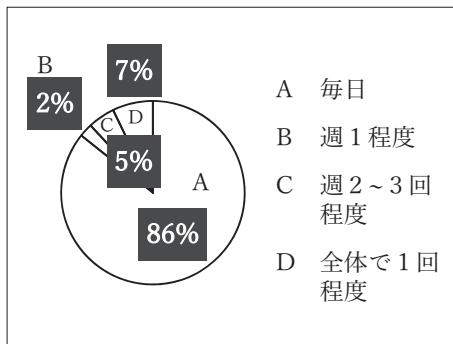
⑫日案作成回数



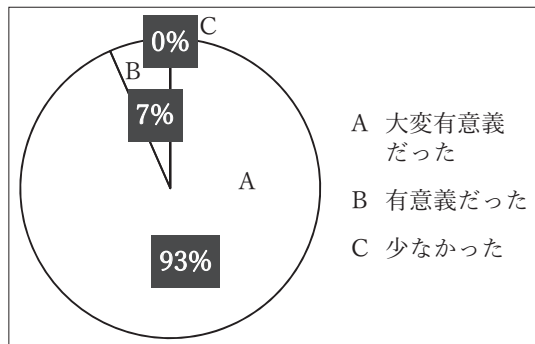
⑬部分実習指導案・日案を作成しなかった理由（自由記述抜粋）

1	実習園より「指導案は書かなくてよい。」との指示があったため
2	実習園より「指導案がなくてもピアノや絵本の読み聞かせを行うことができるため実践のみ行う。」との提案があったため
3	実習園より「指導案は書く必要がない。」との指示があったため

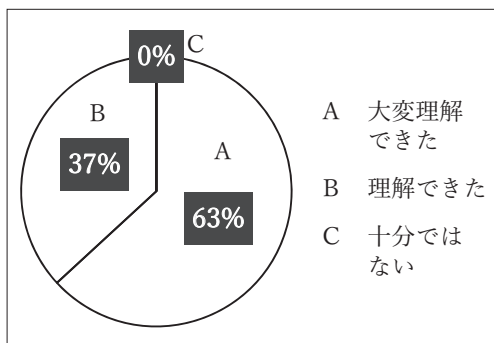
⑭実習期間中の反省会実施状況



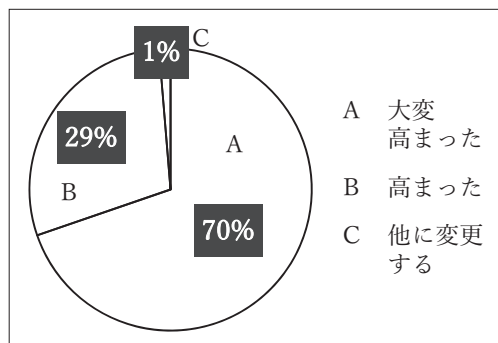
⑮自己評価による実習の成果



⑯自己評価による教職の理解



⑰自己評価による教職への志望



IV. 考察と課題

IV-1. 考察

①設定保育について、ここでは、1日実習、部分実習、またはそれ以外で実習生が保育活動を計画して実践させていただく内容として調査した。教育実習15日間の中で半数以上の69%を占めている実施回数は1~2回である。また、5回以上の実施は7%となっている。指導案を作成しての5回以上の実施は学生にとって「保育内容」「保育方法」の理解などの到達に期待できるのかもしれないが、実習日誌等と並行して行うことは学生の負担感に関係してくることも考えられる。また、実施をしていない実習園も10%となっているため、そこは重要にとらえたい。

②部分実習の実施回数については、指導案作成・未作成の設定保育を含み手遊びや絵本の読み聞かせ、朝の会の進行等、子どもたちの前で保育を実践させていただいたものをすべてカウントした。1回~10回以上の回数は、おおむね4分割のパーセンテージを示した。部分実習の実施は園の実習計画や状況に合わせて行うことにより、多少の違いはあるものの10回以上が29%、1~3回が28%と近い数字であることから検討が必要であると考えられる。

③1日実習の実施回数については、指導案(日案)を作成し、1日、保育者によってその

職務を経験させていただくことを指している。本学の依頼通り76%は1回の実施が確認できており、83%は実施できていた。しかし、17%は実施されておらず、日案作成の練習等、準備を行った学生にとっては、後の調査の「自己評価による実習の成果」で「大変有意義だった」というところに回答していない傾向があった。

④ピアノの実践回数については、近年減少傾向にあるものの、3回以上の実践は57%と比較的多い数値となった。実施回数総計でみると83%であるが、17%は未実施である。本学短期大学部こども学科においては幼稚園・保育園のリトミック指導資格2級または1級を取得する選択科目を設置していることもあり3回前後は経験できるとよいと考えている。

⑤実習日誌の様式は、本学は指定の様式として記述内容の項目を学生が自分で作成する方法をとっている。これは、園側の実習計画や方針に柔軟に対応するためである。

—スタンダード—

時間	環境構成	子どもの動き	実習生の動き・気づき
----	------	--------	------------

—項目園指定—

園の指定の項目を作成

数年前までは半数近くが「項目園指定」の状況があったが今回の調査結果では93%が「本学スタンダード」の様式が使用されていること、学生の負担の軽減などの観点からスタンダードに統一していくことについての検討時期なのではないだろうか。

⑥⑦⑧⑨ここでは実習日誌の「記述時間」「記述場所」「負担度」「負担理由」、について同時に考察を行う。実習生の休息時間の確保や指導案作成、教材準備なども十分に行うために2時間程度がのぞましいと考えているが現実には3時間～4時間要している実習生が69%となっている。しかし、負担度は半数の50%が「余裕があった」「丁度よかった」と回答している。このことから実習生の意識の中に日誌の記述に要する時間が多く必要であっても負担と捉えず学びの一環としての必要事項として認識したのではないかと予想される。また、負担度に関連するところでは実習日誌をどこで記述したのかという事も関係してくる。66%と多くを示すところでは、園で記述し残りを家で仕上げるケースが大半だが、記述のトータル時間が3時間～4時間かかったとしても、分散することにより、負担感が軽減したことも考えられる。実習時間は8時から17時までが基本の時間だが、そのあとに自宅に帰ってから4時間以上かけて日誌を完成させていくことは、「負担が大きかった」と回答していることにつながっていることが個々のアンケート結果から確認できている。負担理由については「日誌を書くことに慣れていない」「書き方がわからなかった」などの理由が多かった。このことは日誌そのものの不慣れさというより、文字を書くことそのものの経験値が減少傾向にあることが考えられるのではないかと。レポート等の作成も手書き・PCでの作成どちらを選択してもよい科目については、PCで作成する学生が半数近くいることも踏まえていきたい。

⑩指導案の様式については数年前の調査では全体数の3分の1は園の指定様式を使用するケー

スが多かった。しかし、今回のケースでは98%が本学の指定用紙を使用している。このことは、実習生にとって実習事前指導で修得したことをそのまま実践に活かし慣れているところで、記述時に安心感も持てるようである。今後、実習園の許可が取れた場合指導案は手書きか、PCでの作成かを選択できるようにすることにも大変有益である。

⑩部分実習指導案の作成回数は1回～2回が最も多く、全体の41%を占めている。次に多いのが38%の3～4回である。14%は書かなかったと回答しているが、日案に部分実習の部分を含んでいるケースもある。

⑪⑬日案の作成回数は2回が最も多く40%を占めている。「作成をしなかった」は17%となっているが、部分実習の指導案を多めに作成したという実際も個々のアンケート回答結果から確認ができた。しかし、部分実習指導案と日案、両方とも作成しなかったケースは全体の11%あり、その理由は⑬に示した通り、実習園からの指示であった。その指示についての理由は明らかではない。今後、確認し検討していきたい。

⑭実習期間中の反省会の回数については86%が「毎日行った」と回答している。このことは、本学からも感謝の気持ちを深く伝えたいところである。実習生にとっては、この後の「実習の成果」「教職の理解」からも読み取ることができるよう、実習の充実に大きくつながっている。事後指導で行う「評価による個人面談指導」でも、毎日ご指導いただき励ましていただいたことが大変有意義な実習であったと回答する実習生が多く、更には、ご指導いただいた実習園、先生方への感謝の気持ちを持つことができている。本学の実習の手引き「教育実習の基本的な心構え」にある「園の状況を正しく理解し、受け入れていただく実習園への感謝の気持ちを忘れてはいけません。」という内容について、おおむね理解していることがうかがえる。

⑮⑯⑰実習の成果・教職の理解・教職への志望については、まず、実習の成果について、93%が「大変有意義であった」7%が「有意義であった」と回答し、教職の理解は63%が「大変理解できた」37%が「理解できた」と回答している。実習の成果の数値は、同じアンケート項目によるコロナ禍前の教育実習実施時、令和元年度の91%、コロナ禍の教育実習実施時、令和3年度の87%と比較して高い数値となっている。実習の受け入れ状況が不安定であることが続き、実習生は、実習が実施できることについて、喜びと感謝の気持ちを持っていることも、自らの意欲的な取り組み、教育実習への高い期待と意識に関連していると考えられる。教職への志望は70%が「大変高まった」29%が「高まった」と回答し1%は「他に変更する」という結果になった。本学科での就職希望アンケート調査によると保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許に関わる職業の選択は年度によって変動はあるものの、過去3年の平均値は93%であることから、おおむね一致していると考えてよいのではないだろうか。

IV-2. 課題と今後の取り組み

①指導案作成による部分実習・1日実習の実践について

今後、実習生が指導案作成による部分実習や1日実習を充実した経験につながるように実施

できるようになるために、実習園の実習計画をより詳細に把握することが重要であるとする。また、「実施しない」または「実施回数が極端に多い」場合などは、実習書類を送付する段階で実習依頼を行う大学側がお受けいただいた実習園に現状の説明や詳細な依頼内容とその目的を伝えるなどの連携を強化していく必要がある。

②実習日誌の様式・PC使用について

実習日誌・指導案の様式については、まず試験的に次年度から「本学スタンダード」の様式を準備し使用する。どうしても「本学様式項目園指定」希望の場合は、ストックの日誌を利用して対応する。「園指定様式」の場合はそのまま対応する。PCでの作成についてはフォーマットを準備し、実習事前訪問の時に実習園に確認し、許可がおりれば使用可能とする。まずは、実習生が選択できるようにして、その割合や実習効果などを調査し検証するようにしたい。

③実習園との連携について

本学の幼稚園教育実習の実習園選定は、実習生の出身地への地域貢献希望を叶える観点からできるだけ、実習生自身で希望した実習園で行うことが大半である。そのため、北海道全域による広範囲の中から、実習園を決定していくことから、数年に一度の割合で行うケースも少なくない。そこを踏まえながらも、実習訪問指導等を丁寧に行い、園との情報交換等を含め、詳細な報告内容を記録として残していくことが重要であるとする。

V. まとめ

本稿は、幼稚園での教育実習を終えた学生の、教育実習全体の中で検討事項として多く上がる内容についての細かい調査から、現状の把握と考察を行い、今後取り組むべき課題を明らかにするとともに、次年度以降の教育実習、教育実習事前・事後指導の向上を目指すこととした。更にその実習事前・事後指導が実習生にとって、効果的なものとなり、より良い実習内容を体験し、教職への魅力を感じながら、自信や意欲とともに教職への志を高めていくことを最終目的とした。今後、本稿で明らかにした課題について、教育実習・教育実習事前・事後を担当する教員間で共有を行い、連携して取り組んでいきたい。

謝辞

本研究に関わる調査では、教育実習、教育実習事前・事後指導の充実における実習生の保育・教職への志の向上を目指すために、北海道内の多くの実習園の皆様のご協力を得ることができました。また、実習生の皆さんには、関連講義への積極的な受講と取り組み、アンケート調査への協力を行っていただきました。大変、有意義な調査結果・分析結果を得ることができまし

たことに、記して心から感謝申し上げます。

参考文献

- 北翔大学・北翔大学短期大学部（2022）「教育実習の手引き」
文部科学省（2018）「幼稚園教育要領解説」フレーベル館
厚生労働省（2018）「保育所保育指針解説」フレーベル館
内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フ
レーベル館
三島知剛（2007）「教育実習生の実習前後の授業・教師・子どもイメージの変容」日本教育工
学会論文誌31号（1）pp.107-114
姫野完治・渡部淑子（2006）「省察を基盤とした教育実習事後指導プログラムの開発」秋田大
学教育文化学部教育実践研究紀要 第28号 pp.165-176
児玉真樹子（2012）「教職志望変化に及ぼす教育実習の影響課程における職業的（進路）発達
にかかわる諸能力の働き—社会・認知的キャリア理論の視点から—日本教育心理学会 教
育心理学研究60巻3号 p.261
菜原桂子・梅村拓未・石澤優子（2022）「幼稚園教育実習における学生の現状と課題」北翔大
学短期大学部研究紀要 第60号 pp.81-88
亀山秀郎（2018）「保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習」ミネルヴァ書房
谷川裕稔・富田喜代子・上岡義典（2014）「教育・保育実習ガイドブック」明治図書出版株式
会社
無藤隆監修・鈴木佐喜子・中山正雄・師岡章（2020）「よくわかる New 保育・教育実習テキス
ト」株式会社診断と治療社
山本美貴子・松山洋平（2017）「保育所・施設・幼稚園実習ブック」株式会社みらい
無藤隆・保育教諭養成課程研究会（2017）「幼稚園教諭養成課程をどう構成するか」～モデル
カリキュラムに基づく提案～萌文書林
北翔大学短期大学部（2022）「講義要綱」